

令和 4 年度 城山中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

（１） 基本目標

「人間尊重の教育」を基盤として、心身ともに健康で、自主的・自律的に行動し、豊かな創造力と正しい判断力を身に付け、社会の変化に主体的に対応し、国際人として世界に貢献できる人間の育成を目指す。

（２） 具体目標

- 1 心身共に健康で勤労を尊ぶ生徒
- 2 基盤となる学力を身につけ、自ら学ぶ意欲をもつ生徒
- 3 礼儀正しく、責任を重んじ、心情豊かな生徒
- 4 主体的で創造性に富み、個性豊かな生徒
- 5 文化や伝統を尊重し、国際社会に貢献できる生徒

（３） 生徒の信条

「強く、賢く、美しく」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

地域と密着した教育活動を展開しながら、互いに学び合い高め合う集団を形成し、すべての生徒が自己有用感を味わえる学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （１） 現行学習指導要領に基づき、学力の定着と向上を図るとともに、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成、目標に向かって粘り強く取り組むことが求められる活動等を通して、豊かな心と健やかな体を育む教育を推進する。〈生徒〉
- （２） 互いに高め合い、学び合う協働的な同僚性の育成と、研修への積極的参加による指導力と専門性の向上、並びに働き方改革の推進により職員の負担軽減と業務の効率化を図る。〈教職員〉
- （３） ○小中間の連携強化を図り義務教育の連続性の確保と、地域人材・地域教材を有効に活用し、地域貢献活動・地域交流活動等の教育活動を推進する。〈小中一貫教育・地域学校園〉

〔 城山地域学校園教育ビジョン 〕 ～ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園～

みんなで育てよう！ 自分を愛し、仲間を愛し、地球を愛する城山の子

4 教育課程編成の方針

関係法令、県教育振興基本計画 2025、市学校教育スタンダードや指導の重点に基づき、生徒が持続可能な社会の創り手となることができるように、学校教育を通して育むべき資質・能力を明確にし、それらを生徒が確実に身に付けることができるよう教科等の関連を図り、バランスの取れた教育課程の編成に努める。その際、地域の教育資源や外部指導者の活用及び魅力ある学校づくり地域協議会や保護者等と連携した、地域に根ざした豊かな体験活動の実施を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【 学 校 運 営 】○一人一人のよさを認め励まし、称賛して更に伸ばす指導の充実○地域の教育力を生かす教育活動の推進・目標に向かって粘り強く取り組む力を育む教育活動の工夫（SDGs への取組活用）・業務の効率化等による働き方改革の推進
- 【 学 習 指 導 】・「主体的・対話的で深い学び」の実現・学習目標の明確化と振り返りによる充実・読解力向上に向けた読書活動の充実・学習習慣の定着を目指す指導○SDGs、主権者教育との関連を図った「宇都宮学」の推進
- 【 児 童 生 徒 指 導 】・自己有用感を味わえる教育活動の推進○認め合い助け合う集団づくりによるいじめ等問題行動の未然防止・規範意識の醸成・生徒会、部活動等による自主・自律の精神の育成
- 【健康（体力・保健・食・安全）】・健康（感染症対策）と食の安全確保○家庭・地域・行政と連携協力して実施する交通安全・防災・保健等の指導・学校栄養士を核とした望ましい食習慣の育成・体力向上を目指す工夫を凝らした教育活動

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 生 徒 の 姿	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 学力調査等の結果を分析し、生徒の学習における課題を明確にした上で、自分の意見の根拠をきちんと述べて発表するなど、中身を深めた質の高い話し合い活動の機会を増やす。 ② ふれあい文化教室や大谷石加工体験学習などの外部講師による授業や、自分の考えを書いたり話し合ったりする活動を効果的に取り入れた授業などにより、生徒の思考力・判断力・表現力等を高める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は90.5%で数値指標より0.5%上回ったが、昨年度と比べて2.1%下がった。 【次年度の方針】 ・授業での話し合い活動や外部講師による授業で思考力・判断力・表現力は高まってきているが、家庭学習時間が少なく、基礎・基本が身につけていない。毎日の自主学習ノートを活用することで学力向上を図っていく。
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 冒険活動教室や職場体験学習等の、人・自然・社会との関わりを通じた体験活動の充実を図り、豊かな心を育成する。 ② 道德、学級活動の時間を中心に、お互いの良いところを見つけ、認め合う活動を意図的に取り入れるなど、「ありがとう」という感謝の言葉が自然に出るような支持的な雰囲気を醸成する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は91.3%で昨年度より3.4%下回ったが、目標数値は超えた。 【次年度の方針】 ・冒険活動などの宿泊学習、道德や学級活動の時間などで、お互いに助け合う場面を意図的に作りながら指導していくことで、相互で認め合う心を育成する。
	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	① 定期的に、服装・身だしなみチェックを行い、生徒自身で自分の生活を振り返らせるとともに、学年集会等で全体に対して指導する方法を工夫し、自己管理能力の育成を図る。 ② 職員間で共通理解を図り、全生徒を全職員で指導する体制を確立する。また、日ごろから全教職員による目配りを行い、きまりやマナーを適時適切に指導する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は89.4%で数値指標を上回ったが、昨年度と比べて1.5%下がった。 【次年度の方針】 ・生徒会活動を充実させ、服装・身だしなみチェックを行う際に、生徒たちが主体的に取り組むことにより、意識付けをしっかりと行う。 ・学校にタブレットが導入されたため、使用の仕方を主体的に見直すことにより、きまりやマナーを守る雰囲気を作る。 ・SNS関係のトラブルが目立つため、学級活動等の授業で、主体的に通信端末の使い方を決め、守らせるよう指導する。
	A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 95%以上 地域住民の肯定的回答 90%以上	① 地域学校園内の小学校や地域協議会と連携をした「あいさつ運動」を、さらなる活性化を目指し工夫する。 ② 引き続き地域協議会と連携を図りながら、「あいさつ運動」を生徒会活動に位置付けて計画的に行いながら、良い事例を称賛し、学校内での教育活動だけでなく、校外活動においても気持ちの良いあいさつができるよう、一人一人の意識の高揚を図る。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は97.0%であり、数値指標を上回っている。地域住民の肯定的回答は90.9%に下がったが、目標指標は引き続き上回っている。 【次年度の方針】 ・地域学校園内の小学校や地域協議会と連携した「あいさつ運動」に加え、 <u>校内での実施しているあいさつ運動を充実させる</u> 。校外活動においても気持ちの良いあいさつを称賛し、一人一人の意識を高くする。

目 指 す 生 徒 の 姿	A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	① 学校行事や部活動などでの困難を乗り越える体験を通して、「褒めて伸ばす」「一人一人の個性を生かす」指導を継続するとともに、「苦手」や「不安」等がある生徒には能力に応じた目標を設定させたり、自分に自信のある生徒には、役割を与えるだけでなく自ら役割を見つけさせたりすることで、達成感や自己有用感を味わわせ、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組む態度を育む。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は、86.4%で昨年度より0.7%下回っているが目標指標を達成している。一方で教職員評価が低く、69.2%である。 【次年度の方針】 ・生徒が主体的に取り組めるような機会を増やし、自信をもたせることで、自己肯定感を育む。また、明確な目標を設定し、自己評価させることで、教職員も生徒の取組を把握できるように努める。
	A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 保健体育の授業において、補強運動を積極的に取り入れ体力の向上を図る。 ② 運動に対する意欲の向上と運動習慣の定着のため、元気っ子チャレンジへの参加を継続する。 ③ 交通安全教室、避難訓練等を通して、正しい意思決定や適切な行動選択ができるようにする。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は、95.1%で昨年度より1.0%上回っている。一方で教職員は-0.7%、保護者は-6.4%下回っている。いずれも肯定的回答は、80%を超えている。 【次年度の方針】 ・引き続き左記①～③の項目について指導していけるよう教職員間での共通理解を図っていく。
	A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 A 5と同じ	① 学級活動(3)イ「社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成」や、道徳C(12)「社会参画・公共の精神」の学習等を工夫し、自分の夢や進路等について考えさせたり、学級内で各々に役割を与え、その活動を褒めたりするなど、社会貢献への意欲を高めると同時に、自己有用感を高める。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は、86.4%で昨年度より0.7%下回っているが目標指標を達成している。 【次年度の方針】 ・学級活動やあったか活動等あらゆる機会をとおして、社会貢献への意欲を高めるとともに、スキル学習（電話がけ・話し方・調査したことのまとめ方・PC・もてなし方など）をより充実し、自信を持って校外の活動に出られるように指導していく。
	A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	① 英語の授業でALTを効果的に活用するとともに、給食の時間や昼休みなどにも生徒とALTがコミュニケーションを図る機会を増やししながら、積極的に話している場面を見た教員が認め励ますなどして、英語力を向上させる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答 87.1%で数値指標を上回っているが、昨年度と比べて1.7%下がった。教職員評価も昨年度より6%下がった。 【次年度の方針】 ・授業中やスピーキングテストではALTとも積極的に活動できているが、昼休みなどALTと話す機会を増やすなどしてさらに向上させていく。
	A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	① ふるさと学習で学年ごとのテーマを設定し、環境や地域文化財、産業、福祉等について学習を行い、郷土の良さを知るとともに、愛情と誇りをもたせるようにする。 ② 朝の会や教科等の授業の中で関連する内容を学ぶ際に、宇都宮や地域の行事・活動だけでなく、宇都宮学を活用し、大谷石文化を積極的に紹介したりする。 ③ 保護者の啓発を行うため、各種たよりや保護者会等での情報発信に努める。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は、90.9%で昨年度よりも7.4%上回っている。保護者の肯定的肯定的回答は 71.9%で昨年度を 1.5%下回っている。 【次年度の方針】 ・地域資源を活用した宇都宮学やふるさと学習を引き続き推進するとともに、保護者への情報発信に努め、保護者からの支援や協力を得ていく。

目 指 す 生 徒 の 姿	A10 生徒は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	① タブレット型パソコンを授業に取り入れる方法を研究し、教室でのグループの話し合い活動などに積極的に活用する。 ② 図書室の利用を教科等の年間指導計画に位置づけ、計画的に図書等を学習に活用する機会を設ける。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は84.8%で数値指標を上回っていて、昨年度よりも2.7%増えている。 【次年度の方針】 ・1人1台端末、図書館利用とも活用している教科が限られているため、より多くの教科で活用できるようにしていく。
	A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 A2と同じ	① 城山あったか活動だけでなく、道德等の学習や外部講師による認知症サポーター養成講座を実施することなどをおして、高齢者に関する講座を実施することなどを通して、高齢者への理解を深め感謝やいたわり敬う心を育む。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は91.3%で数値指標を上回っている。しかし昨年度より3.4%減っている。 【次年度の方針】 ・高齢者の苦労や高齢者福祉施設の課題、高齢化社会の課題等を事前に調べ、自分ができることをシミュレーションさせる。また、外部講師を招き講話等を実施したい。
	A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 75%以上	① 「持続可能な社会」の実現に向けて、教科や領域の学習において、学年目標に向けた具体的な手立てを考えさせるとともに、専門委員会などの活動を通して実行していく。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は78.0%で数値指標を上回っているが、昨年度より、0.2%下回っている。 【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間や、専門委員会では積極的に活動しているが、すべての教科で取り組んでいくようにしていく。
	B1 生徒は、健康の維持増進に気を配っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 保健体育委員が中心となって、手洗い・うがいチェックの方法を工夫して実施するとともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全職員が手洗い等の指導を徹底する。 ② 保健だよりに、時期に応じた健康課題や生徒の活動の様子を掲載するなど、内容の工夫・充実に努める。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は、96.6%で昨年度より0.8%上回っている。一方で教職員は-3.8%、保護者は-0.4%下回っている。いずれも肯定的回答は、80%を超えている。 【次年度の方針】 ・社会情勢や本校の実情に合わせた健康課題について、生徒が解決に向け、主体的に取り組んでいけるよう指導していく。
	B2 生徒は、朝の読書等により、読書の楽しさを味わっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	① 朝の読書の時間等の確保に努め、落ち着いた雰囲気ですっきりと取り組むことができるようにする。 ② 図書委員による各学級でのブックトーク（本の紹介）を年間予定に組み込み、実施していく。 ③ 掲示板等や図書館だよりを利用した本の紹介活動の充実を図り、生徒が積極的に読書の楽しさを味わえるように努めていく。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は81.1%で数値指標を下回っている。教職員評価も昨年度より5.3%下回っている。 【次年度の方針】 ・B日課の日も朝の読書を位置づけ、毎日落ち着いた雰囲気読書に取り組ませたり、図書委員によるブックトークを増やしたりするなどして読書時間を増やすよう指導していく。
目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	① 生徒指導部会や学年会議等において、特別な支援が必要な生徒の実態把握・情報共有に努める。また、特別支援教育コーディネーターを中心に関係教職員や関係機関等と連携を図り、適切な支援を行う。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合は100%と数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 生徒指導部会等、各種会議において、生徒の実態把握・情報共有に努める。また、特別支援教育推進委員会等で、適切な支援方法の検討を行い指導に役立てたい。

目 指 す 学 校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 95%以上	① 学校生活のあらゆる場面でいじめが許されない行為であることを指導する。いじめに関する道徳の授業を学年または学校で一斉に実施する。 ② 学校でのいじめに関する取組を HP に掲載する。その取組を、メール配信システムを利用し、家庭に周知することで、保護者へも啓発する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.8%で、数値指標 0.8%上回っている。 【次年度の方針】 ・学校生活のあらゆる場面で、いじめが許されない行為であることを指導する。全職員の行動連携を図り、生徒の行動を見守るとともに、学校での取組を保護者に周知することを通して、安心して生活できる環境を整える。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 学級の係や生徒会活動を通して、生徒たちに任せる場面を設定したり、自己決定の場を設定したりすることで、その活躍を認め、励ます指導を行い、自己有用感・自尊感情を育む。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.1%で、昨年度よりも 1.1%下回っているが、数値指標は上回っている。 【次年度の方針】 ・「褒めて伸ばす指導の充実」を目指す意識を全職員で共有する。普段の生活や学校行事で、一人一人が活躍できる場面や役割を用意し、認めることを増やすことで、自己有用感を育む。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 A13 と同じ	① 外国人生徒が在籍したときは、日本語での会話や読み書きに困らないよう、日本語指導及び学校生活適応について、状況に応じて関係機関等と連携を図りながらチームで適切な支援を行う。	B	【達成状況】 ・本年度、該当する生徒の在籍はなかった。A13において、肯定的回答が 100%と数値目標を上回っており、達成と考えてよいと思われる。 【次年度の方針】 ・外国人生徒が在籍する場合には、日本語での会話や読み書きが身に付くよう、日本語の指導及び学校生活に適応できるようにチームで支援する。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 「褒めて伸ばす指導」を推進することで、生徒一人一人が自己肯定感を持ち、学校生活に満足感を得られるように支援する。 ② 生徒が主体的に活動できるように授業や学校行事、生徒会活動等の生徒が活躍できる機会を意図的に設定する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 88.6%と、数値指標を若干下回った。しかし、過年度より数値は 4.4 ポイント上がっている。 【次年度の方針】 ・コロナ禍で思うような学校生活ができずにおり、十分に満足な生活を送ることができていない状況は変わらない。多くの生徒が活躍できるように、学校行事等の実施方法を工夫する。また、生徒一人一人が自己肯定感を高められるように、褒めて伸ばす指導を引き続き継続していく。

目 指 す 学 校 の 姿	A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 「自分の考えを書いてまとめる等、思考力・判断力・表現力の育成」に重点を置き、さらに読解力を身につける授業改善に積極的に取り組む。また一人一授業を継続し、お互いのアイデアを参考により良い授業を目指していく。 ② 単元末テストや小テストを計画的に実施するとともに、生徒がワークブック等に意欲的に取り組める方策を検討し、基礎・基本の定着を図る。 ③ 「学力を付けることの必要性」に対する生徒の意識の差が大きいことなどから、教科等で生徒の興味・関心が高い学習から社会につながっていることに気づかせ、学ぶ意義を理解させるよう努める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は93.2%で数値指標を上回った。昨年度よりも2.7%上回っている。 【次年度の方針】 ・一人一授業に関しては、テスト期間や空き時間などの関係であまり見られていないので、3時間など、目標を設定するなどして活発化していく。 ・単元末テストや小テストは実施しているが、基礎・基本の定着をはまるまでには至っていないので、さらに継続していく。 ・「学力を付けることの必要性」に関しても、教科等でも差があるので、更に指導を継続させていく。 ・家庭学習の時間が少ない傾向にあるため、自主学习ノートを全クラスで活用させていく。
	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	① 学校の組織力を強化するため、校務分掌や委員会所属等に配慮し、教育活動の充実を図る。 ② 朝の打合せ、日報、資料の回覧、職員会議等での情報交換・共有に努めるとともに、担当教員を中心として、コミュニケーションを図り、計画的に情報交換の機会を設ける。	A	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は、100%で昨年度と同じで数値目標を上回っている。小規模校ならではの教職員間の協力体制が構築されている。 【次年度の方針】 ・生徒の情報を担任・学年だけでなく、職員全員をチームとして情報を共有し、連携して生徒や保護者の対応にあたる。
	A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	① ミラ임による出退勤時刻の入力を徹底し、勤務時間を意識した働き方を実践する。 ② 市部活動方針に基づき、休養日等を適切に設定し、運用を徹底する。 ③ 各種団体からの研修会参加依頼やコンクール等への出品依頼等を精選する。	A	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は、57.7%で昨年度を23.6%下回おり、数値目標を下回っている。 ・教職員間で働き方改革意識が高まっているものの新型コロナ感染症対策に関連した取り組みが増加するとともに、従来行っていた取り組みを新たな形で実施する模索が続いているため、業務量が増加している。 【次年度の方針】 ・引き続き勤務時間を意識した働き方を目指す等教職員の意識改革を進めるとともに、更に業務改善や行事の精選に務める。
	A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 70%以上 (コロナ終息後は従来の90%に戻す)	① 小中一貫教育主任、部長、分科会長を中心として、小中の教職員間のよりよい連携・協力体制を築く。 ② 小中が連携した取り組みに加え、小中の教職員の連携についても各種たよりや保護者会等で情報発信に努めるとともに、朝の会、帰りの会等で生徒に情報提供をする。また、児童生徒の作品交流等、状況に応じた対応を検討し、実施する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は、58.7%で昨年度を2.0%下回おり、数値目標を下回っている。 ・新型コロナ感染症対策のため、小学校と連携した取り組みが実施できなかった。 【次年度の方針】 ・あいさつ運動やボランティア活動に参加して生徒の感想を校内放送するなど、小中連携の活動の情報を生徒に伝えていく。 ・新型コロナ感染症対策のためできなかった取り組みを、対策を行いながら実施できるように小学校と連携する。

目 指 す 学 校 の 姿	A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 85%以上	① 地域の特色である大谷石文化について、大谷石加工体験学習を始めとする郷土学習や宇都宮学などをおして深く学ばせる。 ② ふるさと学習で地域の方々から地域の特色を体験的に学習する。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は、87.4%で昨年度を1.9%下回いるが、数値目標を上回っている。 教職員、地域住民の肯定的回答は100%である。 【次年度の方針】 ・引き続き地域、地元企業との連携・協力を進めるとともに、保護者へ情報発信していく。
	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 A22と同じ	① 外部講師を招いての喫煙・飲酒・薬物乱用等の防止教室や、保健・安全・福祉等の講座を検討・実施する。 ② 地域連携教員と地域コーディネーターを中心に、魅力ある学校づくり地域協議会と連携し、外部人材の協力を得た活動の検討と人材の発掘に努める。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は、87.4%で昨年度を1.9%下回いるが、数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ・フェスティン大谷等ボランティア体験の情報を保護者に発信するとともに、地域社会への保護者の興味を高めるよう啓発する。また、生徒に対してボランティア体験活動の情報を発信し、体験の機会を増えるように努める。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	① 毎月の安全点検を確実に実施し、対処が必要な部分は適切に処理する。 ② 災害・事故等緊急事態に適切に対応できるようにするため、職員間での連携・共通理解を徹底していく。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は、96.2%で昨年度より0.7%下回っている。一方で保護者は-2.8%下回って、地域は同等である。いずれも肯定的回答は、90%を超えている。 【次年度の方針】 本校を利用する全ての人々が安全に過ごせるよう、①②について、全教職員での共通理解を引き続き図っていく。
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 A10と同じ	① 全生徒に配付されたタブレット型パソコンについて、全教職員が情報交換を図りながら、有効活用に努める。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は84.8%で数値目標を上回っていて、昨年度よりも2.7%増えている。 【次年度の方針】 ・全生徒に配付されたタブレット型パソコンを活用する教科を増やし、より多くの生徒が使用する場面を増やしていく。
本校の特色・課題等	B3 地域を愛する心や地域に貢献しようとする態度が身についている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 城山あったか活動やふるさと学習等の体験を通して、地域社会の一員として自分にできることを考えようとする態度を育てる。 ② 地域の行事やボランティア活動等について生徒に情報提供し、積極的な参加を促していく。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は、92.4%で昨年度より2.2%上回っている。ふるさと学習やあったか活動は、地域の事業所などで活動した。特にあったか活動は今年度より自治会単位で活動することにより、地域の一員として行動することができた。 【次年度の方針】 ・生徒へ地域行事やボランティア活動の情報提供や・参加を推進するとともに、保護者への情報発信に努める。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全評価項目の中で、肯定的評価（回答）が、【数値指標】を上回り達成しているものは、29の対象中25（86.2%）であった。肯定的評価が80%を超えている割合は、教職員が28項目中26項目（92.9%）、生徒が23項目中21項目（91.3%）、保護者が22項目中16項目（72.7%）、地域住民が全12項目（100%）であった。このことから、4対象者において、学校生活においては概ね満足の状態であると考えられる。

生徒の評価では、A9の「生徒は、宇都宮の良さを知っている。」が、【数値指標】より高く、かつ、昨年度より7.4%上回った。これまでの取組の成果が表れたと考えられるので、この長所を活かしていきたい。この活動をさらに向上させ、他項目に相乗効果が表れるようにしていきたい。

教職員の評価では、A20の「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」が、【数値指標】より低く、かつ、昨年度より23.6%下回った。来年度は、勤務時間に対する意識改革をさらに進め、業務改善を中心に組織マネジメントを進めてきたいと考える。

保護者については、学校の取組についての説明や周知を図るとともに、指導の充実に努めていきたい。

学校関係者（地域）については、今後も連携を図るとともに情報の提供等に努めていきたい。

○「今年度の重点目標」の【学習指導】「OSDGs、主権者教育との関連を図った「宇都宮学」の推進」を、学校全体で進めてきた。このことで、日本遺産である大谷石文化のホームグラウンドである城山地区の学校として、例年実施している「ふるさと学習」「あったか活動」「大谷石加工体験」等だけでなく、「城山地域学校園献立」「大谷資料館における第3学年合唱」を新たに進めた。このように地域に根付いた活動が本校の強みであるので、継続していきたい。

○A21の「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」は、教職員や保護者から一定数の評価があるものの、生徒、地域住民からは評価の低さが見られた。これまで、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの学校行事が中止・変更となった。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止と上手に付き合いながらの通常に戻りつつあるので、徐々に感染拡大前の方法を考慮・計画・実践し、地域・家庭に学校の情報を発信していかねばと考える。

7 学校関係者評価

- ・登下校時に会う生徒たちが、よくあいさつをしてくれ、礼儀正しい。
- ・地域と密着した学校行事が行われている。特に、「あったか活動」では、各自治会とのふれあいや奉仕活動がなされ、とても良かった。毎年、これらの活動が継続されていけば、さらに学校と地域が活性化していくと思う。
- ・オープンスクールなど授業の様子を見る機会も増え、生徒が楽しそうに積極的に授業に臨んでいる様子が見られた。
- ・「宇都宮学」が始まり、生徒の宇都宮の良さの理解が深まってきて良い。
- ・「城山ギャラリー」が充実していて、生徒の意識付けにつながっていると思う。
- ・地域とのつながりが、他よりも深いと感じた。このまま継続していったほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・アンケート、学校関係者評価から、令和4年度の学校経営については概ね良好であり、教育目標（目指す生徒像含む）・学校経営の理念（目指す学校像含む）・学校経営の方針・今年度の重点目標に迫る教育を推進できたと考えられる。

○これまでと同様、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校公開がままならず評価できないというものもあった。今後も家庭・地域と協力しながら学校教育目標のさらなる向上に向けて取り組んでいくとともに、総合的な評価で記述した項目に重点を置きながら、次年度の方針を具体化する教育活動の充実につなげていきたい。

○令和4年12月に「生徒指導提要」が改訂された。このことから、学校園全体を通して「積極的な生徒指導」の充実を図り、不登校生徒への支援についても、発達支持的生徒指導を重要視する体制づくりに努めたい。

・教職員の働き方改革については、「業務の見直し」や「意識改革」を進めているところではある。また、教員以外の専門スタッフとの連携を充実させることで、よりよい教育効果が得られるよう取り組んでいきたい。さらに、地域や学校の両方向からの情報発信・共有を心がけ、開かれた学校の中で生徒が生き生きと学習や生活に取り組めるよう、保護者や地域との協働を推進していきたい。

○本校の強みである地域に根ざした教育の展開への重点化を継続し、地域学校園においても広げることで、生徒の自己有用感を高めさせたい。また、目標に向かって活動を続けていく中で、困難な課題に対応する場面において、あきらめずにやり遂げさせ、「児童生徒の粘り強さ」を育ませたい。